

「特集」  
新しい試みも交えて、つながり、広がる  
「地域密着型文化施設」教文の現在地





札幌市教育文化会館(以下、教文)の主催事業の一つとして、長年力を入れてきた「教文伝統芸能シリーズ」。札幌で触れる機会の少ない能楽、文楽、歌舞伎などを紹介し、「伝統芸能といえば教文」と市民の間ですっかり定着したように思えます。2018年からは伝統芸能の公演と連動する形で、和 문화の魅力を紹介する「和 cultura プロジェクト」もスタート。新しい試みも交えながら、地域密着型の文化施設として「人と芸術と社会をつなぐ」をテーマに邁進してきた教文は、2020年以降の新型コロナウイルス感染症の流行という困難な時期を経て、どのように発展していくのでしょうか。オリジナルの取り組みである和 cultura プロジェクトを出発点にして、変わらず大切にしていきたいことや休館中の事業について伺いました。

### 人をつなげていく 和 cultura プロジェクト

——まずは和 cultura プロジェクトを担当されたKさんとNさんにお伺いしたいのですが、このプロジェクトは2018年6月の「能楽なう」公演でホワイエ(ロビー)に和 small 物展示と野点傘による演出を行ったのが始まりです(参照:楽50号)。印象に残っていることありますか？

K 扇子や風呂敷といった日常に息づく和のアイテムを通して和 cultura を楽しんでもらおうと、空間を自分たちで手作りし上げる企画を初めて実施したのですが、本当にたくさんの方が着物で来てくれました。「着物で伝統芸能を観劇する機会をお客さんも待っていたのかな」と感じ、やって良かったなあと思いました。

N このときの展示・演出を皮切りに、以降の空間展示でも事業課だけでなく舞台係や管理課の人たちと協働し、みんなで知恵を出し合いながら一緒につくっています。2020年に1階ロビーで実施した能面とフラワーアートの巨大スクリーンによる「和の空間」の創出(参照:楽52号)、2022年の写真家/美術作家クスマエリカさんによるデジタルカラージュ作品の2階休憩スペースへの展示(参照:楽58号)などの取り組みには、課を横断する協働を積み重ねてきたことが生かされています。

——能面作家の外沢照章さんとフラワーアーティストYANASEさんによって情報誌「act」32・33合併号のために制作されたビジュアルを用いたスクリーンは、とても存在感がありました。

館長 インパクトがありますよね。あのスクリーンはだいぶ定着してきているし、教文らしいと思ってくださる方もいるので、リニューアル後にも掲出したいねという話が出ています。

K 私はあのスクリーンと外の桜や紅葉を組み合わせて写真を撮ることが増えたのですが、教文の植栽の四季折々の素晴

て当日を迎えたのですが、お客さんがたくさん写真を撮ってSNSでシェアしてくださって、楽しんで頂けたことが印象に残っています。PRのために訪問するお店などでも和 cultura プロジェクトの紹介を通して話がふくらみ、2018〜2019年はどんな人の輪が広がっていく実感を得られた年でした。潜在的なお客さんがまだまだたくさんいて、きっかけさえあれば公演に来てくれるのだなと感じ、もっと広げようと思っていた矢先に新型コロナウイルス感染症が流行してしまっただけかというところはありますが、休館中も引き続きプロジェクトを進めていきたいと考えています。

### 「特集」

## 新しい試みも交えて、 つながり、広がる

## 「地域密着型文化施設」 教文の現在地

らしさを再認識すると同時に、建物の外と中とのつながりを意識させてくれる効果もあると思います。

Mさんは札幌市民芸術祭の事務局(教文内に設置)、教文管理課から芸術の森事業部を経て、2022年から事業課にいらっしゃいます。近年の教文の取り組みをどのように思われていましたか？

M 和 cultura プロジェクトや広報関係も含め、若い人に伝統芸能を広めていくことに力を入れていて、これまでとは少し違った形の事業展開の仕方をしているなと思っていました。2022年度からは事業課長という立場になったのですが、コロナ禍で長くできなかったことが動き始めた時期でもあり、従来の形にとらわれずに事業展開したいと思えますし、みんながやりたいことを中心にやっていく形で応えてくれている状況です。これからももっと面白いことをやってやろうという職員の気持ちを感じています。

### 地震やコロナ禍を経て、 改めて大事にしていきたい 「地域密着型文化施設」としての役割

——2018年は和 cultura プロジェクトのような新しい試みが始まった一方で、9月に北海道胆振東部地震が起きて短編演劇祭や貸館が全て中止になるという出来事もありました。そして2020年からは

N 元々のきっかけとして、主催事業の上演時に札幌でしか見られないオリジナルの取り組みができたなら、それが付加価値となってお客さんにもっと楽しんでもらえるのではという思いがありました。そこからホワイエの広い空間を活かして、どのように盛り上がり余韻を楽しむ場を作っていくか発想していききました。当日は館長も含めてみんなで和装するなど、その後の他の事業にも共通する「やっていく側も楽しむ気持ちがないと、お客さんには伝わらない」というスタンスに転換していきつけにもなりました。

館長 2018年は和装の方や和 small 物を取り入れた装いの方にプレゼントを差し

新型コロナウイルス感染症の流行があり、現在も続いています。

M 生の舞台を観られることがどれだけ幸せで、大事なことを再認識できた3年間でした。世の中がニューノーマルにシフトしてデジタルコンテンツも広がってきましたが、その反動で多くの人が生の舞台に戻ってきてくれることを期待したいです。同時に、コロナ禍では演劇をはじめとする舞台芸術に関わる方々がとても苦労されていて、今後同じような状況になったときにそういった方々を支援できるようなことを、いろいろな形で整備していかなければいけないなと思えます。事務局をしている札幌市民芸術祭も、長い歴史を持つ市民による市民のための開かれた芸術祭であるだけに、困難な状況下でもそれを乗り越えて開催することの意義を感じています。

——教文が大切にしている「市民の芸術活動を守る」ということにもつながるお話ですね。楽58号では開館以降の教文の歩みを集めました。教文には地域密着型文化施設として積み重ねてきた歴史があると思えました。

館長 教文の一番の強みは、やはりそこだとおもいます。中文連や高文連、子どもさん達のバレエやピアノといった習い事の発表会にもずっと使われていて、「小さい頃に教文で発表会に出ました」という方や「演劇の発表で教文の小ホールにずっと

### 館長さん

楽53号の特集インタビューに登場。



### Mさん

札幌市民芸術祭事務局、事業課の課長。



### Kさん

事業係長、情報誌と和 cultura プロジェクトを担当。



### Nさん

情報誌と和 cultura プロジェクトの制作担当スタッフ。



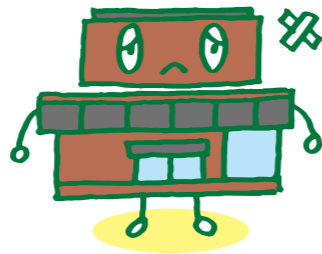
## 改修工事に伴う休館についての

# Q&A



教育文化会館では、天井や外壁の改修、電気・機械設備、舞台機構、客席など施設の設備を更新するため大規模改修工事を2023年1月より実施しています。2024年9月30日までの全館休館となり、みなさまにはご不便をおかけいたしますが、ご理解・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

### Q1 なんで改修するの？



教育文化会館は1977年にオープンし、今年で46年目を迎えます。そのため老朽化が進んでおり、今回の改修工事では今後も未永く安全にご利用いただくための改修を行います。

### Q2 どんな工事をするの？



主に外壁、内壁タイル、空調設備等の改修が中心となります。工事期間中は会館内への立ち入りは禁止とさせていただきます。

### Q3 休館中の事務所はどこになるの？

教育文化会館から徒歩5分程度の場所にあるビルの1室が仮事務所となります。また、これまでは原則第2・4月曜日が休館日でしたが、2023年1月から2024年9月までの工事期間中は祝日を除く月曜日から金曜日までの営業となります。

**【住所】**  
札幌市中央区南2条西13丁目319  
南大通ビル2条館4F  
TEL・FAX / 変更なし

### Q4 2024年以降の休館明けの予約をしたいけど、どうすればいいの？



2024年(令和6年)10月利用分の一斉受付は2023年(令和5年)10月2日に一斉受付を実施、2023年(令和5年)10月5日から随時受付を開始する見込みです。

### Q5 一斉受付はどうなるの？



2024年(令和6年)10月利用分の一斉受付方法などの詳細は、近くなりましたらHPにてご案内します。

### Q6 休館中の主催事業はどうなるの？



休館期間中は従来の施設は使えませんが、当館以外の施設を活用してさまざまな事業を実施する予定です。継続事業もごさいますが、初となる取組も多数企画しております。お楽しみに！

### Q7 ホールメイトは入会・継続した方がよいの？



休館期間であってもさまざまな主催事業を企画しております。ホールメイト会員特典である先行受付や割引もごさいしますので、ぜひご入会ください。

改修工事期間は **2023年1月1日** ~ **2024年9月30日** までの予定です。

本文中に出てきた「楽」や「act」はこちらから読むことができます。



楽49号



楽50号



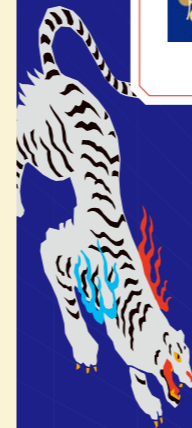
楽52号



楽58号



act 32-33合併号



「札幌市「教育」文化会館という名前に込められた、学びの部分ですね。  
M 会館設立の目的は、時代が変わっても大事にしていきたいいなと思われています。芸術文化活動を専門でやっている人だけではなく、これからやってみようと思ってる人の窓口としての教文の役割も、今後さらに大事になっていくと思います。  
館長 優れた芸術作品を紹介し、それに感動して自らもやってみようという気持ちを持った人にはさまざまなワークショップ

「伝統芸能といえば教文」をさらに推し進める休館中の事業  
——教文は2024年9月30日まで休館します。休館中に予定している事業にはどんなものがありますか？  
N 従来のワークショップなども実施しますが、大きなコンテンツとしては2023年8月に札幌文化芸術交流センターSCARTS(以下、SCARTS)で能楽展示を開催します。これは2019年にSCARTSで初めて行った能楽展示(参照:楽49号)の拡張版というイメージで、より面白くなる予定なので楽しみにしていてください。2023年11月には、「能とクラシック」をテーマにした札幌コンサートホールKitara(以下、Kitara)との連携事業を初開催します。  
K 過去に実施した他館との連携事業は場所の提供等にとどまっていたのですが、今回は初めてゼロから企画を一緒に作り上げる連携事業です。  
N Kitaraの強みと教文の強みをミックスさせて、双方のファンに「面白かった

と言ってもらえるような取り組みになるよう話し合いを重ねているところです。一回限りではなく、教文のリニューアルオープン後にさらに発展していけるような連携事業を目指しています。  
館長 「伝統芸能といえば教文」をさらに推し進める事業のもう一つの目玉として、2024年は新能を予定しています。意外性のある場所で開催しますので、こちらも楽しみにお待ちください。  
M リニューアルオープンまでは教文の建物を使えないので、逆にそれを良い機会と捉えて外で事業を行い、これまで教文に足を運んだことのない方々にも伝統芸能の魅力を伝えていきたいですね。  
館長 SCARTSでの能楽展示は前回もたくさんの方々に見てもらえたので、Kitaraとの連携事業はクラシックファンが能楽の囃子に出会うきっかけになるかもしれない。屋外で開催する薪能なら観てみたいと思う人も多いと思います。今まで教文に目を向けていなかった人たちにどんどん注目してもらおうような仕掛けをつくることで、たくさんの方に足を運んでもらい、そこからまた人の輪が広がっていく。そうやって今後も、地域密着型文化施設としての教文の強みを高めていければと思います。

### 教文事業課

伝統芸能や演劇といった事業を軸としながらも、空間演出や和文プロジェクト、オンラインコンテンツなど、形にとらわれない柔軟な発想を活かした取り組みを積極的に展開する。

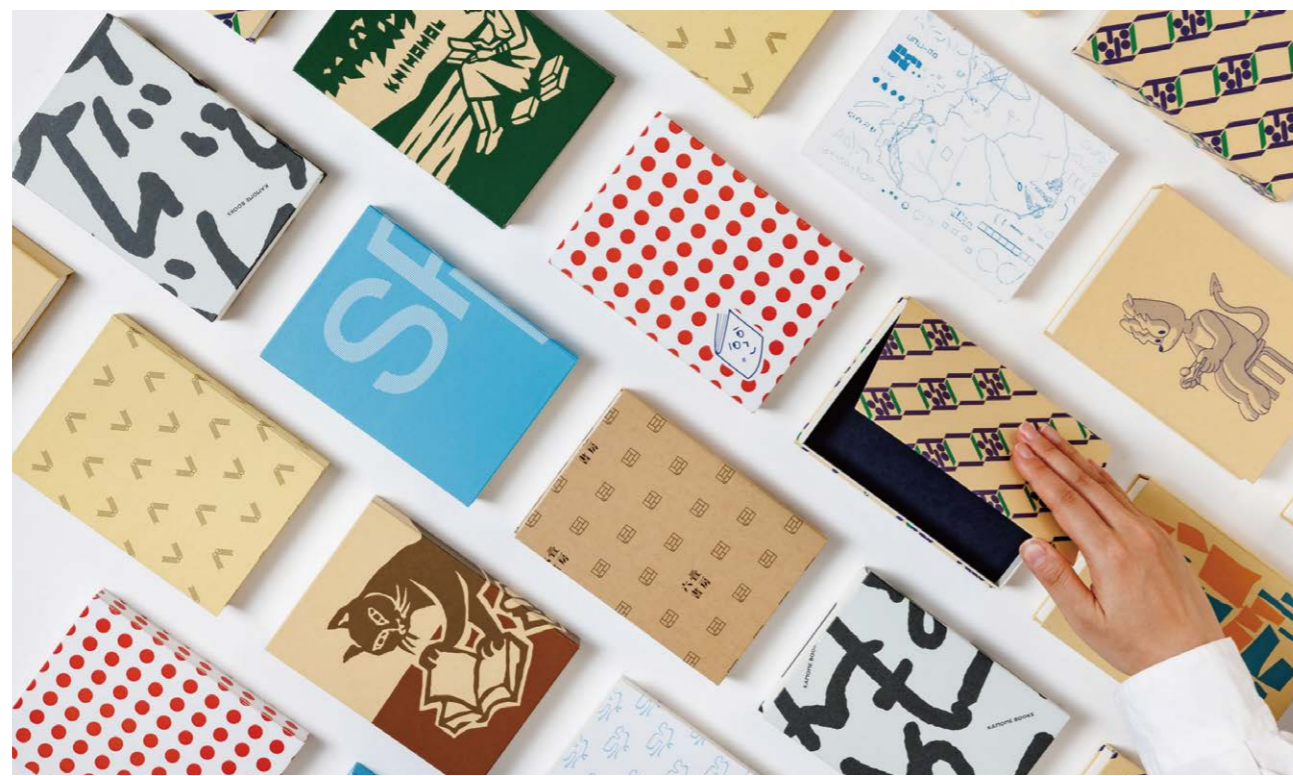


Japan Culture Tour

# 和文文化巡

## 第13回 「函文庫(はこぶんこ)」プロジェクト

伝統芸能とともに日本の文化の魅力を気軽に体感してもらう「和文文化プロジェクト」。連載13回目は、「函文庫」プロジェクトをご紹介します。



左からモリタ株式会社の近藤篤祐さん、アーティスト前田麦さん、デザイナー小島歌織さん



### 「函文庫」プロジェクト SNS

Twitter  
<https://mobile.twitter.com/hakobunko>

Instagram  
<https://www.instagram.com/hakobunko/>

### ブックカバーで 文庫サイズの紙箱づくり

「函文庫」プロジェクトは、札幌在住のアーティスト前田麦さん、デザイナーの小島歌織さん、老舗紙箱メーカーモリタ株式会社の近藤篤祐さんがタッグを組んで生まれた、ブックカバーを使って文庫サイズの紙箱を簡単に作ることができるDIYキット。学習誌の付録のような説明書きを見ながら、ハサミ一つでできる工作がどこか懐かしい人気のキットです。「文庫サイズの隠し本がほしい」という発想からスタートしたプロジェクトだけに、身箱にはページのような質感と色味を持つ紙をセレクトし、出来上がりはブックカバーを纏った文庫本そのもの。蓋が上製本(ハードカバー)の表紙と同じ作り方の「貼り箱」という手法を用いる点も、本好きには嬉しいポイントです。ちなみに、書店でブックカバーをかけるのは日本独自の文化。書店のアイデンティティでもあり、中にはブックカバーを蒐集する人も。不定期開催のワークショップでは「函文庫」オリジナルのブックカバーもつきませんが、大切に取っておいたブックカバー持参で参加する方が必ずいるのだとか。現在キットはオンラインショップで販売中。販売やワークショップに関するお知らせなどSNSをぜひチェックしてください。

## SAPPORO ENGEKI no WA

### 三瓶 竜大さんから指名

[プロフィール]

手嶋 浩二郎

Kojiro Tejima

2017年大学進学をきっかけに北海道に移住して同時に演劇を始め、舞台照明家としての歩みを始め、ふらふらと現在に至ります。屋号は夕凧。



# 演劇

さっぽろ

# のわ

舞台照明家

手嶋 浩二郎

### 【次回公演情報】

ポケット企画「おきて」

2023年2月24日(金)~26日(日) 扇谷記念スタジオ・シアター ZOO

劇場入りしてからの  
明かりづくりが一番好きです

大学で入った劇団しるちゃんで照明に配属され、卒業後2021年からはフリーランスの舞台照明家として活動している手嶋浩二郎さん。照明の面白さについて伺いました。

—前回登場いただいた三瓶さんが、手嶋さんを「舞台の知識や学ぶ姿勢が同世代の中で抜きん出ている」と評していました。演劇ファンならではの視点かと思いますが、観劇中はやっぱり照明にも注目してしまうのですが、お客さんとして観ている自分も照明から結構情報を得ていると感じていて、照明は作品の見え方を決められるのだなと最近よく考えます。中でも維新派や木ノ下歌舞伎の照明デザインを手掛ける吉本有輝子さんは、灯体の数も人より少なくシンプルなのにすごく美しい照明を作る好きな照明家さんです。

—プランはどのように作りますか？

徹底的に台本も参考資料も読み込んで、細かいところまで打ち合わせます。演出家からのオーダーに対しては、言われたことをそのままやるのではなく、自分なりに咀嚼して応えるということを意識しています。演劇とコンテンポラリーダンスを主に手掛けていて、どちらも好きですが、ダンスはぐっと抽象的で自分が感じたことを照明で表現するような形が多く、そういうのも楽しいです。

—どこに魅力を感じますか？

演劇はみんなでコミュニケーションを取りながらつくっていくところがすごく面白いと思っていて、照明で一番好きなのも、劇場入りしてからの明かりづくりです。実際に自分の考えたものが再現できているのかどうか頭も使うし、演出家と実際に明かりを見ながらいろいろ話して、その場で思いもよらないオーダーが来たら、それを咀嚼して修正してその作業をしているときが一番楽しいです。

—三瓶さんからは「手嶋さんのつくる照明の色があって好みます」というコメントもいただいています。

僕は会社に入って照明を学んだわけではないので、自分でレイ&エラーを繰り返してセオリーを組んでいったタイプなので、どうしても王道ではない明かりにはなってしまう。人が捨てるようなセオリーをあえてやるのが多くて、実験したことを逐一ノートに書いて蓄積しています。

—今後追求したいことは？

一つ一つ自分の答えを作品を通して出していくことを意識してやっているので、これからもステップアップしながら作品を届けたい。照明を軸に生きているのが充実していると感じるので、このまま続けていきたいです。舞踏作品での照明や、光を使ったインスタレーションにも興味があるので、そういった新しいことにも挑戦していきたいらと思えます。